

第4章 研究成果等

第1節 概要

以下、外部に委託していた自然科学分析3件と、近年の木製品保存処理からえられた成果の計4件について報告する。その内容をここで補足しておきたい。

(第2節) 庄・蔵本遺跡医学系総合実験研究棟II期改修地区におけるプラント・オパール分析

この調査では、第3遺構面において弥生前期の小区画水田を検出している。調査に先立って、あらかじめ、第3遺構面より上層部分のプラント・オパール分析を依頼した。これは、その報告である。試料採取地点については、P5第4図を参照されたい。なお第3遺構面の分析については、現在依頼中である。

(第3節) 庄・蔵本遺跡西病棟建設予定地におけるプラント・オパール分析

この調査で検出した畠遺構および関連遺構のプラント・オパール分析を依頼した。この分析は、畠遺構の機能を考える上で、非常に重要な位置を占めているといえる。

今回報告分は、採取した試料中ごく一部で、今後も分析を重ねていく所存である。試料採取地点については、P16・17第13・14図を参照されたい。

(第4節) 庄・蔵本遺跡出土管玉の原材产地分析

この分析は、中村大介氏による平成18年度文部科学省科学研究費「弥生時代開始期における日韓の玉類の比較研究」(若手研究B、課題番号18720210)の研究成果の一部でもある。分析にあたられた藁科哲男氏ともども感謝申し上げたい。

(第5節) 庄・蔵本遺跡出土木製品とその樹種

徳島大学構内遺跡では、いずれの地区においても、多量の木製品が出土している。徳島大学埋蔵文化財調査室では、2005年度以降、継続的に木製品の保存処理にあたっている。保存処理に際しては、事前に樹種鑑定をおこなっており、中原計が担当している。ここでは、庄・蔵本遺跡出土の弥生時代の木製品について分析を加えた。